



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2006 Vol.
5



Photo by H.Wakita(c)



秋吉耕祐、今季3度目のポールポジション!! 9人が1秒にひしめく超激戦、決勝も混戦必至!!

5月に行なわれた第4戦オートボリスから3カ月の長い夏休みを終え、いよいよ全日本もこのSUGOラウンドから後半戦となる。

ここまで4戦、ポイントランキングでは伊藤真一(KEIHIN Kohara R.T.)と渡辺篤(ヨシムラスズキwithJOMO)の二人が他を引き離し、わずか1ポイント差でタイトルを争っている。トータル63ポイントvs62ポイント。ランキング3位以降は柳川明(Team GREEN)が45、出口修(DyDo MIU Racing)が44、秋吉耕祐(ヨシムラスズキwithJOMO)と山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)がそれぞれ41ポイントで続いている。このSUGOラウンドから残り3戦あり、まだまだタイトル争いの行方は分からない。

今回、JSBの予選は1時間の長いセッションが1回だけ、一発勝負でありながら長丁場という難しい予選セッションだ。セッション開始直後にマシントラブルや転倒などに見舞われると、予選そのものをフイにしてしまうこともある。逆に、1時

間の連続走行という機会はあまりないため、タイムアタック以外に、マシンのセットアップやテストに時間を使うことができる。

コースレコードは昨年のレースで伊藤が出した1分28秒885。金曜日に行なわれた練習走行では、秋吉がただ一人1分28秒8台をマークし、伊藤の持つレコードに迫った。金曜日にも予選の土曜日にも、夏としては過ごしやすい気温になり、路面温度などの条件はタイムアタックには悪くないもの。

午後1時15分、予選セッションが始まった。3周目、辻村猛(F.C.C TSR)がいきなり28秒739のレコードタイムをマーク、柳川も28秒8台に入れ、序盤からヒートアップしている。続いて4周目、伊藤が28秒680で辻村のタイムをわずかに上回りトップに立つ。17分、8周目、手島雄介(F.C.C TSR)が29秒160で5番手に、さらに20分経過のところ秋吉が狙いすましたかのようにペースアップ。10周目に28秒405でトップに立った。

続いてチームメイトの渡辺も28秒台に入れる

が、順位は変わらず。30分、中須賀克行(YSP&PRESTOレーシング)が13周目に29秒185までタイムを詰める。その後、上位でのタイム更新はなく、秋吉、山口、中須賀は決勝を見据えたテスト走行で周回をこなす。秋吉は決勝用のタイヤテストを行っていた。

残り15分、それまでタイムアタックに参加していなかった亀谷長純(Team桜井ホンダ)が28秒台にタイムをいれ、5位に浮上した。残り10分からライダーは最後のタイムアタックのためにコースイン。18周目の辻村が28秒540を出し伊藤を抜いて2位に、トップの秋吉に迫ったが、秋吉はチェッカー直前の2周でさらにタイムを詰め、前戦オートボリスに続いて、今季3回目の堂々のポールポジションを獲得。しかし決勝では、秋吉が簡単に逃げられない激戦が予想される。

[青木 淳]



楽しみ方いろいろ。
MFJ SUPERBIKEの情報満載

2006年もGAORA(CS放送)で全戦放映!!
地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!
レース速報はMFJオンラインマガジン mfj.or.jp
情報満載のファンサイト superbike.jp へ!!

TIME TABLE Rd.5 SUGO

10:25 -	GP-MONO 決勝レース 12Laps
11:00 -	GP125 スタート進行(選手紹介)
11:15 -	GP125 決勝レース 18Laps
12:00 -	ST600 スタート進行(選手紹介)
12:15 -	ST600 決勝レース 18Laps
12:50 - 13:35	ピットウォーク
13:40 -	JSB1000 スタート進行(選手紹介)
13:55 -	JSB1000 決勝レース 25Laps
14:50 -	GP250 スタート進行(選手紹介)
15:05 -	GP250 決勝レース 20Laps

※上記タイムテーブルは、変更されることがあります。

不確定要素の多い第5戦SUGO。 新垣敏之がどんな動きを見せるか？



今回もST600クラスの公式予選は8人がコースレコードを更新するレコードラッシュとなった。第3戦筑波に続き、スポット参戦した新垣敏之が、金曜日の走行から驚異的な速さを見せていたが、予選1回目のセッションで、いきなり1分32秒368という先制パンチを見舞った。このタイムには、レギュラーメンバーも驚きを隠せなかった。酒井大作は、「速すぎる。絶対出せないタイムだ」と語っているほど強烈なインパクトだった。その酒井は、2回目のセッションで炎のアタックを敢行。SPコーナーでは、コースアウト寸前という渾身のライディングを見せ、

1分32秒193をマーク。昨年、自身がたたき出した1分33秒229というコースレコードを1秒以上更新。見事、ポールポジションを獲得した。「大事なのは決勝。レース序盤は無理をせずに気をつけて、チャンスがあれば前にいく。とにかく無事にゴールしたい」と酒井。開幕戦で優勝しながらも、筑波、オートポリスとノーポイントが続いている。さらに昨年のSUGOのレースでも、スタート直後に接触し、ノーポイントとなっているだけに今回は何が何でもチェッカーを受けたいところだ。

新垣敏之は、前回参戦した筑波では3位に入っているが、今回は、一気に表彰台の真ん中を狙っている。「テストは先週、スポーツ走行で一度走っただけ。マシンも筑波のときから変わっていないけれど、勝ちを狙っていくよ」と自信をのぞかせる。

暫定ランキングトップを走る渡辺篤は、金曜日のJSB1000のセッション中にバックストレートで鳥と接触し、右肩を強打していたが、その影響を感じさせない走りです番手グリッドにつけた。ダンロップ勢で唯一、フロントローにつけた大崎誠之は、「ダンロップタイヤに合うセッティングが煮詰まってきたので、気持ちよく攻められている。理想は序盤から(酒井)大作と逃げられればいい。それで勝てれば最高だね」と大崎。ゼッケン1をつける安田毅史は、先週のテスト中にオイルに乗り転倒。左ヒザを痛めているが、2連覇を達成するためには、今回は必ず勝っておきたいところだ。

酒井が逃げることができるか？ 新垣がどんな動きを見せるか？ レース終盤まで何台がトップ争いに残っているか？ 不確定要素が多い第5戦SUGO。その行方から目が離せない!

[佐藤 寿宏]

写真(上):酒井大作 (下):新垣敏之

前半戦全勝の横江竜司が地元の声援を受けてポールポジション獲得 その背後に迫りつつあるライバル勢。横江の全勝を止めるのは誰か？



2006年シーズン後半戦がスポーツランドSUGOで幕を開けた。最大の注目は、前半3戦で全勝という圧倒的強さを見せた横江竜司の連勝が続くのか、それとも誰が横江を止めるのかに集まっているが、SUGOは仙台出身/在住の横江にとって地元であり、全日本初優勝を達成した得意のサーキットである。

地元で友人や知人の来訪も多い横江は「新しいフロントタイヤを装着して、だいぶ良くなりま

した。でもそのためリヤとのバランスが崩れたので、その解決法を探っている所です」としながらも予選開始後すぐに好タイムをマークし、最後のアタックに備えてピットで待機する余裕さえ見せた。そして終了間際にコースへ飛び出し、1分30秒465をマークしてポールポジションを獲得した。

しかし今回のレースがひと味違うのは、ライバルたちがメキメキと力を付けていることだ。筆頭は成長著しい高校2年生の高橋巧で、2番手グリッドを確保した。「事前テストは2回ともうまくいきました」と笑顔を見せる高橋からは、前半戦の時のように「横江さんに離されないようついでいきたい」という先輩を立てる発言は聞かれず、横江の地元で連勝を止める気だ。3番手はベテランの及川誠人で「優勝して日本GPへいい流れ作りたい」と連勝阻止を狙う。4番手は筑波で横江を追い詰めたタイ期待のラタバ・ウイライローで「そろそろ勝ちたい」と本気で初優勝を狙っている。

続くGP経験者の宇井陽一とルーキーの濱本裕基も後半戦を迎えて250ccでも真の実力を発揮し始めており、予選で2番手以下を0.5秒以上引き離している横江も、うかうかとしてはられない。横江が連勝街道を突き進むのか、それとも誰かが横江を止めるのか。決勝の火蓋は27日の午後3時過ぎに切って落とされる。

[川岸 健二]

写真(上):横江竜司 (下):高橋巧

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある47歳。

[佐藤 寿宏] 名前に「寿」があるため業界でのニックネームが「ことぶき」というめでたいフリーライター。全日本ロードレースは1994年の最終戦以来、ほぼ全戦取材している。

[川岸 健二] ロードレース専門誌「サイクルサウンドス編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で7年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

井手敏男が1年ぶりのポールポジション 勝つのは若手か? ベテランか??



45分、1セッションで行なわれた公式予選。暫定ランキングトップを走る若干14歳の中上真昂が、まず1分35秒419をマークし、リーダーボードのトップに立つ。中上は、金曜日の走行で1分35秒120をマークしており、コースレコードの更新に期待がかかっていた。しかし、今回は出走台数が50台と多く、クリアラップがなかなか取れない。そのすきを突き、セッション終盤に井手敏男が1分35秒400をマークしトップに立つと、そのタイムを上回る者は現れず、昨年の第4戦オートボリス以来となるポールポジションを獲得した。「それほどいいタ

ムではなかったので(ポールポジションは)少し意外でした。スタートは1コーナーに10番手以内に入りたいですね(笑)。今年は、まともにレースができていないので、今回は表彰台に上がりたいです」と井手。中上は2番手となり、3番手に仲城英幸がつけた。「いい感じにマシンは仕上がってきている。レースは、勝つか、転倒するか、どちらかぐらいの勢いでいく」と気合いの入る仲城。4番手に2戦連続で表彰台に上がっている15歳の富沢祥也が続いた。「そろそろ勝っておきたいですね。マシンも走っているしイケますよ!」と強気のコメント。

ゼッケン1をつける菊池寛幸は、金曜日の午前中のセッションでマシントラブルに遭い、出遅れてしまったものの、きっちりマシンをまとめて5番手につけた。「エンジンは走っているし、あとは車体をどうするか。決勝朝のウォームアップで確認して、勝負できる状態にしたい」と菊池。

6番手につけた竹内吉弘は、「マシンの状態は悪くはないけれど、今ひとつ気持ちよく乗れていない。もう少しマシンを煮詰めてトップ争いに絡んでいきたい」とコメント。

8番手の葛原稔永は、そろそろ世界帰りの實力を見せつけたいところだ。「04年のセッティングにしたら、いい感じに乗れている。ブレーキングもかなり突っ込める状態になってきているので、決勝はイケますよ!」と上り調子だ。

レースは、中上が前に出れば一人旅になる可能性もあるが、今回は、それほどアドバンテージはないようだ。GP125らしい混戦のレースになるかもしれない。

[佐藤 寿宏]

写真(上):井手敏男 (下):中上真昂

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった
4種類のパスで、
今年も国内最高峰の
ロードレースをお楽しみください。



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL : 0285-45-8465(AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

EVENT INFORMATION

ライダートークショー サイン会・チャリティオークション キャンペーンガール オンステージ

全日本参戦ライダーが登場する恒例のライダートークライブの他、握手サイン会、チャリティオークションなどを開催。ライダーの素顔に触れるHOTなイベントです。

レースクイーン、キャンペーンガールが大集合するオンステージも開催。
●場 所: パノラマエリア[SUGOイベントステージ]
●時 間: 1回目)09:15~10:15・2回目)11:40~12:10

ピットウォーク・キッズパレード

トップライダーをはじめ、マシンやキャンペーンガールとも身近に触れ合うことのできるチャンスがこのピットウォーク。コース上ではキッズパレードも開催します。

●場 所: レーシングコース・ピット周辺
●時 間: 12:50~13:35
■ピットウォークチケット¥1,000-(イベント広場総合案内他で販売)

ファミリーウォーク

中学生以下のお子様連れ家族は、ピットウォーク無料
●受 付: 10:00~ メインスタンドカルパト入口

サーキットクルージング

レース終了後に、恒例のレーシングコースの体験走行を開催

●受 付: バドック正面バドック券販売所/500円(保証料)
●集 合: バドック2輪駐車場

*イベント内容・出演ライダー等は変更、中止されることがあります。
*詳細につきましては、イベント広場総合案内所にてご確認ください。

GP-MONO



今シーズンから全日本格となったGP-MONO。4ストローク250cc単気筒エンジンをGP125マシンのフレームに搭載するという、ローコスト、イコールコンディションをコンセプトとした、入門者でも取り扱いやすく適度なパフォーマンスを持ったマシンによって争われる。

15分間で争われた公式予選では、セッション開始から#18小原寛と#2森 隆嘉がトップタイムを塗り替えながら周回を重ねる。中盤以降になるとランキングトップの#51山下 祐が、さらには#15古川 真一がトップタイムを更新。ポジションを入れ替える。結局、古川がマークした1分40秒615で初ポールポジションを獲得した。

写真:ポールポジションの古川真一

公式予選結果

●決勝スタート/10:25~(12周)

Pos	No.	Rider	BestTime	Team
1	15	古川 真一	1'40.615	RATS&ライディングスポーツ
2	51	山下 祐	1'40.621	ZBユビクツR.PLUSONE
3	13	阿部 徹郎	1'40.763	あべスピ・ヤマハ&セルコホーム
4	2	森 隆嘉	1'40.891	KRS&PLUS ONE
5	18	小原 寛	1'40.908	チームフレッド&P/バドック
6	99	平石 理	1'41.126	レーシングチーム ハニービー
7	7	斉藤 一輝	1'41.794	ケンツJトラストズキ
8	3	赤間 清	1'42.122	CLUB HARC-PRO.
9	65	繁野 明治	1'42.747	ホットバンクUSA&癒温の湯
10	10	藤 直之	1'42.767	チームスガヤ・PILOTA
11	40	小山 隆浩	1'43.018	18 GARAGE RACING TEAM
12	56	松澤 雄大	1'43.298	ウルフマ&Tヨシハル&鉄馬
13	14	田中 敬秀	1'43.542	MRF&アードレグブース
14	49	松本 記一	1'44.142	team-KAZUMA
15	11	岡田 義治	1'44.202	MRF&RH松島
16	155	吉島 正治	1'45.448	MRF&MPF&NPF&NTR
17	42	小沢 良美	1'45.662	バーニングブラッドRT
18	25	榊原 徹	1'45.775	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
19	55	吉田 光弘	1'46.863	Team Life・ドリーム
20	46	横江 幸二	1'46.880	MOTOTEC森のくまヨコエY
21	134	重野 浩	1'47.710	NSBR↑40・JBS・サブクラブT
22	26	福岡 大吾	1'48.523	M-A-R-S&KDC
23	36	織田 道武	1'49.144	パワーバイレーシング
24	41	馬場 隆	1'53.584	パワーバイレーシング
39		法月 多嘉夫	計測出来ず	MARS&OMEG&ベア

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT

毎月24日発売

2006年10月号<No.285>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

GP125 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/11:00 スタート/11:15(18周)

Starting grid for GP125 Class, 18 positions. Includes rider names, bikes, and lap times.

ST600 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/12:00 スタート/12:15(18周)

Starting grid for ST600 Class, 40 positions. Includes rider names, bikes, and lap times.

*Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイム Δは1'33.229

JSB1000 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/13:40 スタート/13:55(25周)

Starting grid for JSB1000 Class, 34 positions. Includes rider names, bikes, and lap times.

*No.511は、大会審査委員会の決定によりB/27のウォーミングアッププランにて、トップタイムの110%以内であることを条件に出走資格を認めるとした。

*Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイム Δは1'28.885

GP250 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/14:50 スタート/15:05(20周)

Starting grid for GP250 Class, 30 positions. Includes rider names, bikes, and lap times.

*Rマークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイム Δは1'30.579